

## 令和5年度 京友会研究助成事業選考結果

助成期間 令和5年7月10日～令和6年3月31日

応募は7件あり、申請書にもとづいての審査を行い、研究目的・研究計画・助成金の用途・研究業績書・指導教員の推薦書の記載にもとづき、研究内容の説明の明瞭性や研究計画・助成金の用途の妥当性などを協議した。

その結果、研究的な価値が認められ一定の水準に達していると判断された7件について採択し、1. 研究計画に示される研究方法についての明瞭性、2. 申請された助成金の用途の研究計画に対する妥当性、3. 募集要項に対する申請内容の妥当性、などを考慮し、予算上の上限額の範囲内で配分の判断を行った。

2023年5月26日 審査委員 瀧端真理子・服部憲児

助成者	学年	講座	指導教員名	研究課題
コイケ ヒカル 小池 光	M2	教育認知心理学講座	野村 理朗	伝統芸能「能」実践者における内受容感覚への気づきに関する研究
スガヤ ナオキ 菅谷 尚樹	M1	教育・人間科学講座	明和 政子	Still-Face パラダイムにおける親子間情動共制御に関する神経メカニズムおよび親子特性の検討
ヤマグチ ヨウコ 山口 陽子	M1	教育社会学講座	服部 憲児	学校改革における教頭の役割変化の可能性の解明
カネコ ミチヒロ 金子 迪大	D3	教育認知心理学講座	楠見 孝	ウェルビーイング・フラグメントの統合的理解
ハシモト ユウコ 橋本 由布子	D3	臨床心理学講座	梅村 高太郎	星と波テストにおける描画の日中比較
バターソン レベッカ リー PATERSON REBECCA LEE	D3	教育認知心理学講座	Manalo Emmanuel	英語に対する正の感情が外国語スピーキング不安に及ぼす影響に関する研究
ムラカミ ハルカ 村上 遥	M2	教育認知心理学講座	Manalo Emmanuel	The Effect of Self Appraisal on EFL Motivation in L2 Motivational Self System (自己評価が L2 Motivational Self System のにおける英語学習のモチベーションに与える影響)

# 令和5年度京友会研究助成事業助成対象者コメント

## －助成を受けて－

### 小池 光

この度は令和5年度京友会研究助成事業に採択していただき、誠にありがとうございます。

私は、「身体内部から生じる感覚」と定義される内受容感覚について研究を行っています。「胸が高鳴る」、「腹が立つ」といった慣用句にみられるように、身体と感情・認知の間には深い関係があります。内受容感覚は、こうした心身の関係を媒介する機構として注目を集めるトピックです。実際に、内受容感覚が鋭敏な人ほど自分の感情に気づきやすいことが知られており、そのことが感情制御や他者の感情の推察といったスキルの基盤となることが指摘されています。このような背景から、内受容感覚の鋭敏さを変容させる要因を解明し、介入方法の基礎となる知見を提供することで、教育や医療等、実社会に貢献できるのではないかと考えました。修士課程における研究では、心身の結びつきを重視し発展してきた伝統芸能「能」に着目し、その実践が内受容感覚の変容とどのように関連するかを検討します。プロの能楽師（能の演者）を対象とし、心理尺度を用いた量的アプローチと自由記述による質的アプローチを組み合わせた調査を行っています。得られたデータについては、統計的に分析したうえで、学会発表や国際学術誌への投稿論文といった形で発信していく予定です。

いただいた助成金は、主に本研究に関する学会発表の費用に充てさせていただきます。ご支援をいただきましたことに改めて感謝申し上げますとともに、より質の高い研究を遂行できるよう尽力してまいります。

### 菅谷 尚樹

この度は、京友会研究助成事業にご採択いただき、誠にありがとうございます。

私は、養育者との双方向的な交流が、乳児の感情を制御する力の発達に与える影響について、研究を行っております。

私たちは、日々の生活の中で、自分の感情を感じ取り、それをコントロール（情動制御）しながら、対人コミュニケーションを上手に行ったり、心身のバランスを保ったりしています。こうしたスキルは生後すぐから十全に備わっているのではなく、乳児期では特に、養育者との交流がこのスキルや情動発達を支えていると考えられています。

そして、親子交流においては、行動や身体内部の活動などの様々なリズムが自発的に揃うこと（親子同期）が知られています。そこで、私は、行動・心拍・脳における親子同期が、乳児の情動制御にどのような影響を与えるのか、脳波・心電計測を用いて実証しようとしています。また、親子の様々な特性を評価する質問紙を用いることで、親子同期やその情動制御への影響における個人差についても明らかにしたいと考えております。

親子同期と情動制御との関連や、それらに関する個人差について検討することは、様々な気質などの特性を持つ親子に対して、社会的場面における個別型の支援を考える上で非常に重要であると考えられます。

いただいた助成金は、質問紙・調査器材の購入や学会発表のための準備費用に充てさせていただきます。貴重なご支援に改めて深く御礼申し上げますとともに、本研究がより実りあるものになるよう、今後とも邁進していく所存です。

## 山口 陽子

京友会の研究助成事業で助成金を頂戴できることに感謝申し上げます。

2年前に、本学に編入学いたしまして、この4月より、修士課程で学んでおります。定年まで、大阪の府立高校で勤務いたしておりましたので、そこでの学校経営の実践知や暗黙知を理論知にしたいという思いで、卒業論文に取り組んでまいりました。修論では、これを基に継続して研究していく予定でございますが、卒論の仮説以外に、学校改革の最前線に「教頭」の姿が見えないということが卒論の副次的な結果として見えてまいりました。そこで、修論とは別研究として、このことを解明したいと考えております。題目を「学校改革における教頭の役割変化の可能性の解明」として、この助成金を活用して研究する所存でございます。

(研究の概略)

昨今、教員の働き方改革が叫ばれ教員のなり手も激減するなか、教頭への登用希望者も激減している。教頭としての現場経験から、仮説として、教頭が担う職務が主幹教諭配置以前とは変化して、教頭の長時間労働に代表されるような激務だけでなく、校長が学校改革において今まで教頭に求めていた役割の一部を主幹教諭に移行してしまったことで、さらにその業務は魅力を失っているのではないかと推測している。そこで本研究では、校長が教頭に学校改革推進において、期待する役割の変化の有無について解明することを糸口に、どのように校長が教頭と協働すれば教頭職が魅力的になるのか、その方策を明らかにしたい。

## 金子迪大

まずは、令和5年度京友会研究助成事業にご採択くださいましたこと御礼申し上げます。本助成を受けて、一層の研究実施に邁進して参りたいと存じます。

私の研究テーマはウェルビーイングです。特に、ウェルビーイングとは何か、そしてウェルビーイングをどのように上昇させることが出来るかについてこれまで研究を行ってきました。ウェルビーイングは近年産業界でも人気の概念で、日本語では幸福とも訳されます。簡単に言えば「善い状態」を意味します。善い状態という何を思い描くのでしょうか。人それぞれ異なるでしょう。実際、ウェルビーイングの心理学では様々な善さが提唱されてきました。その数は100種類以上にもものぼると推測されます。数が多いことはそれだけウェルビーイングについての理解を進める上で有用ですし、これまでウェルビーイング研究が進んできた証でもあります。しかし、多様な概念が提案されていることでウェルビーイングとは何かということが見えにくくなってしまっています。そこで私はウェルビーイングを構成する様々な概念について、どのようなまとまりにまとまるのかを実証的に検討してみたいと思っております。それによりウェルビーイング概念を整理して、測定や介入にとって便利な形でまとめ直すことで、研究のみならず社会における実践でも使用されるような尺度を新たに作成できることを期待しています。

## 橋本 由布子

この度は、私たちの研究「星と波テストにおける描画の日中比較」に助成をいただきましてありがとうございます。

「星と波テスト」は、ドイツの心理学者ウルスラ・アヴェ＝ラルマンによって1979年に開発された心理検査で、A5判の小さな紙の上に「星と波を描く」ことで簡易に、そして年齢を問わず行うことのできる描画法です。この描画では「夜」がテーマになることで深層心理が表れやすいと言われており、「特定の文化には影響されない」とも言われています。しかし、私たちの体験世界はそれぞれの育ってきた文化の上に成り立ち、それは描画にも表れると考えるのが自然ではないでしょうか。

幸いにも、新型コロナウイルス感染症のもと途絶えていた海外との交流が復活する今年、私たちは中国で開催される、描画を含む芸術療法に特化した学会に、ワークショップを提供する機会を得ました。そこで、中国において星と波テストを実施し、かつワークショップでディスカッションすることを通じて、描画に現れる普遍性や差異を明らかにしたいと考えました。私たちの研究から、日本と中国、互いの文化への理解が深まり、日中の心理臨床家の交流から芸術療法の発展に微力ながら寄与できればと考えています。いただいた助成金は、8月の渡航費と資料の翻訳や通訳、現地での通信費等に使用させていただく予定です。ご支援に感謝いたします。

## PATERSON Rebecca Lee

令和5年度京友会助成を採択頂き誠にありがとうございました。

ご提供頂く助成金により、博士論文のための第2実験が実施出来るようになっただけでなく、貴会を介し多くの人々に研究を知って頂ければ幸いです。博論の趣旨を説明すると、外国語スピーキング不安の認知メカニズムを理解し、新しい対策法または教育法をデザインすることである。本実験では、英語学習者の一般的な認知能力と英語に対するポジティブな気持ちに関する個人差の要素に注目し、脳活動を測定しながら、外国語スピーキング不安を和らげるのに役立つ要素を明らかにする。ご提供頂く助成金を実験協力者の謝礼金として使い、1人につき約90分の参加に1500円を提供する予定である。実験は認知タスクと英語スピーキングタスクを含む。主要の仮説としては、英語に対して最もポジティブな感情を抱いている参加者は、不安が引き起こされた場面に置かれても、認知タスクと英語スピーキングタスクのパフォーマンスに退化が見えず、認知負荷を表す脳活動の程度は低いと予想している。その理由として、ポジティブ感情は認知メカニズムを促進させ、不安の悪影響を和らぐ効果があるといわれることが挙げられる。外国語スピーキングにポジティブ感情を用いることが有効であれば、円満なコミュニケーション能力を育み、国際交流に繋がる点で、本研究は外国語教育に貢献できると考える。

## 村上 遥

この度は、研究助成に採択いただき、誠にありがとうございます。私は、日本人の英語学習におけるモチベーションについて関心を持って研究をしています。

外国語学習におけるモチベーションは、「外国語を学びたいという気持ち」と「外国語学習を続けたいという気持ち」を促進することから、外国語学習の成功の鍵を握るため必要不可欠なものであるとされています。現在に至るまで、外国語学習におけるモチベーションは様々な観点で捉えられてきました。その中で現在私が注目しているのは、外国語を使用して叶えたい「理想の自己」と「現在の自己」の間にある乖離を埋めようとするため学習努力をする、という「自己」の観点に注目したモチベーション理論です。学問に関する「自己」は、課題におけるパフォーマンスから自身の能力を理解することで構築されています。しかしながら、人々は自身の能力を完璧に評価することができず、過大評価や過小評価する傾向にあることがわかっています。

こうした背景から、現在、自己評価を通して構築される「理想の自己」と「現在の自己」が英語学習モチベーションに与える影響を研究しています。これまで英語学習のモチベーションを向上させる方法は、指導方法や教材を工夫することで学生の興味を引き出すことに焦点が当てられていました。しかし、多くの場合学習者は英語を使えるようになりたいと願いつつ、必ずしも英語という科目に興味を持っている訳ではありません。そのため、本研究において自己理解とモチベーションの関係を明らかにすることで、将来的に、従来の「興味」という側面だけでなく、「自己理解」という側面から日本人学習者の英語学習モチベーションの向上に貢献で

きればと考えております。

頂いた助成金は調査費用に充てる予定です。ご支援に改めて深く御礼申し上げるとともに、本研究が実りのあるものとなるよう尽力していく所存です。